

# 影武者

鑑賞日 2018・10・1

製作 1980年 黒澤プロ・東宝映画提携作品 上映時間 179分  
監督 黒澤明  
脚本 黒澤 明、井手雅人  
出演 仲代達矢、山崎 努、萩原健一、大滝秀治、梶大介、倍賞美津子  
受賞 1980年カンヌ国際映画祭 パルム・ドール受賞、毎日映画コンクール 日本映画大賞受賞

## 【あらすじ】

武田信玄（仲代達矢）の弟信廉（山崎努）は仕置場から死罪の盗人（仲代の二役）を拾い、信玄の影武者として仕立てる。天正元年、武田軍は徳川の野田城を包囲するが、城中からの笛の音を聞いていた信玄が狙撃され、深手を背負って死亡。

信玄は死ぬ前に「三年間は死を隠し、領国の備えを固めよ」との遺言を残した。

信玄の遺言を守るため信廉はかねて用意の影武者をたてる。粗暴で武術の心得もなかった影武者は信玄を葬る武将たちの姿に感動し、信玄の影武者として生きることを決意する。信廉の指導のもと、影武者は次第に威厳をつけはじめ、特に、世継ぎと定められた勝頼の子竹丸には「おじじ、おじじ」と慕われて、重臣と側近の者を除いては疑う者は誰もいない。

## 【解説】

黒澤明はかねてから「戦国時代は日本の歴史の中で最も躍動的でエネルギーに満ちた時代で、戦国時代を題材として映画を作りたい」と考えていた。そこで「武田信玄には影武者がいた」という話を思い出し、『影武者』というアングルから戦国時代を観るといふ観点から井手雅人と共同で脚本を書いた。壮大な脚本は映画化には莫大な費用がかかるため、東宝は映画化をためらい、映画化は難航した。黒澤監督に心酔していたアメリカの映画監督のフランシス・コッポラとジョージ・ルーカスはこの企画に賛同し、20世紀フォックス社に働きかけ、海外収益の一部を受け取るという条件で製作費の一部を出費させた。これで製作費の目処がついたので、映画化が実現した。

映画化に際し、黒澤は特定の役柄については、特定の俳優を配したがその他はオーディションで選ぶとし、公募の広告を新聞紙上に掲載した。公募に応じ、

1万5千人が応募した。特定の俳優は仲代達矢（武田信玄、影武者）、大滝秀治（侍大将）、倍賞美津子、桃井かおり（信玄の側室）など少数であり、他は有名、無名を問わずオーディションで選ばれている。萩原健一、山崎努、室田日出夫、根津甚八などすでに著名の俳優の他に俳優修業中の梶大介、全くの素人の油井昌由樹などが重要な役についた。準備期間が長かったこともあり、黒澤のイメージ通り撮影が進み、10カ月あまりで完成した。一画面、一画面が色彩豊かな絵画となり、黒澤明の映像美は世界を驚嘆させた。『影武者』は直ちにカンヌ国際映画祭に送られ、その年のパルム・ドールを受賞した。